

学校ソリューションセミナー2021

全ての子どもたちの可能性を引き出す 「令和の日本型学校教育」とは？

開催日

9/18 土

19:30 ~ 21:45

※ご自由に途中参加・途中退出頂けます

参加無料 オンライン開催
事前申込が必要です

申込期限：9/16(木) 18:00

お申込はこちら



「令和の日本型学校教育」とは



荒瀬 克己 氏

独立行政法人教職員支援機構 理事長
中央教育審議会 初等中等教育分科会長

学校現場が実践する「子供を主語にする学校教育」



粕谷 直彦 氏

昭和女子大学附属昭和中学校・昭和高等学校
中学校教頭



加藤 智博 氏

立命館守山中学校・高等学校
教諭 (生徒部主任)

今年1月、中央教育審議会から、『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～』という答申が出されました。

社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0」時代の到来、コロナ禍などの先行き不透明な「予測困難な時代」を生徒一人ひとりが生き抜くために、新学習指導要領の着実な実施を求める内容となっています。

本セミナーでは、答申に示されている「子供を主語にする学校教育」の実現を話題の中心として、未来の教育の在り方について一緒に考えます。

中央教育審議会「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（答申）【総論解説】

1. 急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力

社会背景	子供たちに育むべき資質・能力
<p>【急激に変化する時代】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0時代」 ■ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大など先行き不透明な「予測困難な時代」 ■ 社会全体の デジタル化・オンライン化、DX加速の必要性 	<p>一人一人の児童生徒が、自分のよきや可能性を認識するとともに、あきらめぬを価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要</p> <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ これらの資質・能力を育むためには、新学習指導要領の着実な実施が重要 ✓ これからの学校教育を支える基盤的なツールとして、ICTの活用が必要不可欠

2. 日本型学校教育の成り立ちと成果、直面する課題と新たな動きについて

「日本型学校教育」とは？	【新しい動き】
<p>子供たちの知・徳・体を一体で育む学校教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 学習機会と学力の保障 ■ 全人的な発達・成長の保障 ■ 身体的・精神的な健康の保障 	<p>新学習指導要領の着実な実施</p> <p>学校における働き方改革 GIGAスクール構想</p>

【成果】	【今日の学校教育が直面している課題】
<ul style="list-style-type: none"> 国際的にトップクラスの学力 学力の地域差の縮小 規範意識・道徳心の高さ 	<ul style="list-style-type: none"> 子供たちの多様化 生徒の学習意欲の低下 教師の長時間労働 情報化への対応の遅れ 少子化・人口減少の影響 感染症への対応

「正規主義」や「同調圧力」からの脱却 一人一人の子供を主語にする学校教育の実現

「日本型学校教育」の良さを受け継ぎ、更に発展させる！
新しい時代の学校教育の実現

19:30 開演 主催者挨拶

19:35 **第1部 「令和の日本型学校教育」とは**

- ・「子供を主語にする学校教育」のめざすもの
- ・25年前、堀川高等学校はなぜ探究を始めたのか

荒瀬 克己 氏 独立行政法人教職員支援機構 理事長
中央教育審議会 初等中等教育分科会長

京都市立堀川高等学校長、京都市教育委員会教育企画監、大谷大学文学部教授、兵庫教育大学理事、関西国際大学学長補佐を経て現職。中央教育審議会初等中等教育分科会長、教育課程部会長、「令和の日本型学校教育」を担う教師の在り方特別部会委員等を務める。



20:05 **第2部 学校現場が実践する「子供を主語にする学校教育」**

- ・生徒の主体性を最大限引き出す取り組みについて

粕谷 直彦 氏 昭和女子大学附属昭和中学校・昭和高等学校 中学校教頭

ここ数年、受験者数・難易度ともに急上昇し、注目を集めている昭和女子大学附属中学校・昭和高等学校において、新カリキュラム「SHOWA NEXT」を始動。「生徒自身に選ばせる」「現地体験」「協働による新しい価値の創造」を重視したプログラムで、生徒の「個人」「チーム」両面での主体性の発揮を促し、次代を、たくましく・しなやかに生きる女子を育てている。2004年より企画広報部長、2014年からは中学教頭として、多くの学校改革の先頭に立ちリーダーシップを発揮。



20:25 **・「自律を育む生徒支援がもたらす可能性」 「対話を重視した学校のルールづくり」**

加藤 智博 氏 立命館守山中学校・高等学校 教諭 (生徒部主任)

鳥取県出身。立命館守山中学校・高等学校教諭。生徒部主任 (中学)。硬式野球部顧問。2020年3月まで、教育改革で注目を集めた東京・千代田区立麹町中学校で生活指導主任 (現・生徒支援主任) と学年主任を兼務。固定担任制の廃止や定期テストの廃止など工藤勇一校長 (当時) のもと次々と進められた学校教育改革の現場で中心的役割を担う。2020年4月から立命館守山中学校・高等学校に実践の場を移す。脳神経科学やコーチングを取り入れた生徒の自律を育む生徒支援を継続実践中。昨年度は中学1年学年主任。今年度は生徒部主任として、生徒や保護者を交えた学校づくりを進めている。元中卒浪人生。



20:45 休憩

20:50 **第3部 学生時代に得たスポーツを通じた学びについて**

松山 恭助 選手 (株)JTB所属 東京2020オリンピック競技大会
フェンシング日本代表 男子フルール個人・団体出場

4歳の時、地元台東区のフェンシングクラブでフェンシングを始め、小学5年時に初めて日本代表に選出される。高校はフェンシングの強豪、東亜学園高等学校に入学。インターハイでは太田雄貴氏以来となる3連覇を達成した。早稲田大学に進学後は世界ジュニア選手権優勝、ユニバーシアード大会優勝など多数の国際大会においてメダルを獲得し、昨年行われた全日本フェンシング選手権大会では男子フルールで優勝。現在は、男子フルールナショナルチームのキャプテンとして世界大会を転戦。



21:00 **第4部 「子供を主語にする学校教育」を可能にするカリキュラム・マネジメントとは？**

荒瀬 克己 氏 **粕谷 直彦** 氏 **加藤 智博** 氏 (ディスカッション)

21:30 JTBの教育事業について